
ワンピース 二人の転生者

アルトアイゼン・リーゼ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ワンピース 二人の転生者

【Nコード】

N3901Z

【作者名】

アルトアイゼン・リーゼ

【あらすじ】

俺と親友の拓人はいきなり謎の爺に殺されてしまいワンピースの世界に転生することになった、その世界では俺と親友はルフィとエースの兄という設定だった！？俺達は桁外れな悪魔の実の能力を手に入れグランドラインで暴れまくる

プロローグ

「・・・なあ拓人・・・なぜこうなった・・・」

「・・・俺に聞かれてもな・・・」

「だよな・・・とりあえずこの自分の事とか整理と行こう」

「いやなんでだよ・・・？」

「そういう電波を受信した」

「んだそりゃ・・・まあいいか」

俺の名は拓人、どこにもいる普通の高校生だ」

「PS彼女持ちのリア充だ」

「!!!?おい!!」

「冗談だ、俺は東中出身すずみY「おい！何ハルヒコやろうとしてんだよ！」あつばれた？」

「バレるわ！ちゃんとやれ！前振りお前からだろう!!」

「はいはい、俺は心、拓人の中学校からの友人だ」

「うんでは言いたいことを言おう」

「うん」

「・・・此所何処だあああ!!!!!!」

俺達がいるのは光の中、一面真っ白

「なあ俺達高校の帰りだったよな？」

「ああ、心と話しながら帰ってた」

「だよな」

「ああくっそ!!」

・・・?

何か声が聞こえる、近くで何かゲームをやってる奴がある

「ああもつ！なんでイージーモードなのにこんな難いんだよ！！」
「……………おいおい……………」

何か……………爺がスタフォアサルトの2面で苦戦してる

「おい爺、俺に貸してみろ」

「あん！？なんだよお前ら！……………あ！！アンタら俺が殺した！！」

「……………は？今なんつた？」

今俺達は重要なキーワードを聞いた

「ああ俺が暇つぶしで殺した奴等か」

「……………拓人……………」

「おう……………」

俺達は持っていたトンファールとメリケンサックを取り出して装備する

「え？あの……………？」

「死にさらせええええ！！！！！！」

「ぎゃああああ！！！！！！！！！！」

暫くお待ちください……………

とりあえず爺の全身のボコボコにした、全身から湯気が立っている

「すみませんでした……………この通りです……………」

土下座をする爺

「さてどうするかな？」

「このままもつと殺すか？」

「・・・勘弁してください・・・転生させてあげますので・・・」
「あんな事出来んのかよ？」

スタッフオアサルトの2面で苦戦してる奴に出来るのかよ？
つてかアンタ何者？

「ワンピース限定ですけどいいですか・・・？」

「・・・いいよな」

「ああ、特典付ける」

「は、はい・・・」

爺は怯えながら答える

「じゃあ俺にはロギア系コアコアの実際の核人間にしろ」

「オリジナルですか？」

「ああ、それとトリコのサニーとゼブラの能力も付けろ、身体能力はMAXだ

あと覇気だ、すべての覇気が扱えるようにしろ」

「じゃあ俺はゾオン系悪魔の実カミカミの実モデル死神の能力者だ
身体能力はMAXだ、あと覇気だ、すべての覇気が扱えるようにしろ」

「俺と同じか」

「いいじゃん」

「は、はい・・・では能力はご想像の物にいたします・・・
では！いつてらっしゃい！！」

爺がそう言つと俺達の足元が割れた

「「なにいいいいいい！！！！？？？こん爺いいいい！！！！」

俺達はそのまま落ちて逝った・・・

「あつ・・・勝手にルフィの兄にしちゃった・・・記憶付けとこ・・・

文句言われたくないし・・・」

・・・ううん・・・

俺が目を開けると天井が見えた

「「・・・知らねえ天井だ・・・」」

・・・どうやら拓人も目覚めたようだ

「此所何処だ？」

「・・・看板によるとナノハナらしい」

「え？リリカル？」

「誰が魔法少女って言ったよ、心」

「てか知らないはずの記憶があるな、アフターケアって奴か」

「そうじゃね？ってか腹減ったな・・・でもベリーないんだっけ・・・

「大丈夫だ、俺のコアコアの実の力で作れる、コアクリエイト『核創造』！！！」

俺は空気の中に存在する核を使い数十万ベリーを作り出した

「さあ飯だ！！」

「便利だな、その能力」

この世界での弟達

俺と拓人は目覚めた場所を離れコアコアの実の能力で作り上げたベリーを持って食事をしている

「記憶を整理したらルフィとエースの兄貴ってどういう死亡フラグだよ」

「諦める、この世界にいる時点で死亡フラグなんて既に立ってる」

「ああすいませんが隣いいか？」

声を掛けられその方を向くと・・・

「え！？シン兄にタク兄！！」

「エース？なついな」

「お久しぶりだな、まあ飯にしようぜ、兄として奢るぜ」

「おお！ありがとう！！」

エースは席に着き食事を始めるが、食事の量が半端ない・・・
がその時

「よくも大衆の面前で飯が食えるもんだな、白ヒゲ海賊団2番隊長、ポートガス・D・エース」

海軍大佐であるスモーカーが来た

「し、白ヒゲ！！！！？」

まわりはざわざわと騒がしくなる

「エース、有名になったな」

「いや、褒めるなよシン兄」

「・・・名の知れた大物海賊がこの国になんの用だ？しかも・・・その隣の二人・・・」

ここ数年で異常なまでに頭角を表した海賊、コア、シン、それと死神のタク・・・」

俺達は既に海賊という設定らしいのだ

因みに俺の懸賞金は1億8千万ベリ、拓人が1億7千5百万ベリ、エースは持っていたコップを置く

「探してんだ・・・弟をね」

「腹拵えだ」

「んで？俺達はどうすればいいんだ？」

「大人しく捕まるんだな」

「」「却下」「」

きつぱりと言い放つ

「まあそうだろうな、俺も別の海賊を探している、正直お前達的首には興味かねえ」

「じゃあ見逃してくれ」

エースが陽気な声で言う

「そうはいかねえ」

そう言うとスモーカーの腕は白い煙になった

「俺が海軍、お前達が海賊である限りな・・・」

「つまんねえ理由」

「タク兄の言う通り、楽しくいこうぜ」

そして一触即発の空気を・・・

「めええええしいいいやあああああ!!!!!!!!!!!!」

と言う声がブチ壊し、俺達に何かが体当たりしてきた

俺達は吹き飛び、店の壁をぶち破り奥の家の壁も貫通した

「いつててて・・・」

「びつくりしたあ・・・」

「誰だよこんなバカな真似すんのわ・・・」

俺達は瓦礫の中から出て貫通した穴を通り店に戻る、するとそこにいたのはルフィだった

「「「あ!おいらf」」」

「麦わらあああ!!!!!!」

スモーカーが俺達を踏み台にしルフィに駆け寄った、そしてルフィは逃走、スモーカーも追跡

「オイ!エース、拓人!追うぞ!!!」

「おう!」

「おい待てよ!ルフィ!俺だ!!!」

俺達も追跡、食事代置いて、が全然見つからない

「いねえな」

「居た！」

そこではスモーカーがルフィに攻撃していた
そこにエースが

「陽炎！」

エースが攻撃を仕掛けスモーカーの攻撃『ホワイトブロー白拳』を無効化した

「やめときな、お前は煙、俺は火だ、俺とお前の能力じゃあ勝負は付かねえよ」

「それに今は俺と拓人もいる」

俺は腕に粒子を纏わせる

「自然二人に動物一人……このまま戦うか？」

拓人は大鎌を握る

「エース！シンにタク！エース！お前悪魔の実食ったのか！？」

「ああ！メラメラの実をな！シン兄とタク兄も能力者だ！とにかくこれじゃあ話も出来ねえ

後で追うからお前から逃げろ！コイツらは俺が止めといてやる！行けえ！！！」

「分かった！行くぞ！！！」

ルフィ達は走り出す

「さあってとシン兄達は見ててくれ」

「はいはい」

エースとスモーカーは戦闘に入った、煙と炎が混じり合いながら空に上がっていく

やはり炎と煙じゃあ勝負はつかないか、そして戦いに紛れてエースたちと共に逃げた

俺と拓人は一旦海際に出てエースがルフィを連れて来るまで待つ事にした、そして待っているるとルフィが

海の吹っ飛んで行った、そしてエースが来た

「タク兄、ルフィは？」

「あの船に行ったぞ」

「じゃあ俺の船であの船に行こう」

俺達はエースのストライカーに乗りゴーイングメリー号にストライカーを着けた

「まあ今俺とエース達と戦ったら俺が勝つけどな！あひゃひゃひゃ

！！！」

「それも根拠のない話なんだろう？」

「はあシン兄達・・・」

「おう」

「ああ」

俺達はジャンプしメリー号に着地する

「「「お前が！誰に勝てるって！？」」」

「おう、シンにタク！エース！さっき言った俺の仲間だ」

「「「ああこいつはどうも皆さん、ウチの弟がお世話になって・・・

「「「

「……………え？いや、まったく」「……………」

「何分コイツは仕付けなつてねえからおめえらも手を焼いてるだろうが……………」

「……………いや、まったく」「……………」

「よろしく頼むよ」

エースは頭を下げる、俺はバックから箱を出す

「皆さんいつもウチの弟がご迷惑掛けております、これは粗品だけど……………お受け取りください」

「あ、いやご丁寧に……………」

ナミが慌しく受け取る

「なんか……………すごく意外だ……………」

「確かに……………」

「俺はてつきりルフィにわをかけた身勝手野郎かと……………」

「嘘よ、こんな常識ある人達がルフィのお兄さん達なわけないわ」

「弟思いのいい奴だ」

「兄弟つて素晴らしいだな……………」

「解らねえもんだ、海つて不思議だな」

思い思いの感想を述べる麦わらの一味、すると前方と横、背後から敵船が来る

「ルフィ、俺が掃除してくる」

「じゃあ俺は前を」

「俺は横を」

俺は前方に、拓人は横に

俺は右手に粒子を収束させ腕を構え、拓人は大鎌を構える

「フオトン!!!」 「斬空波!!!」

右腕から太い閃光が放たれ、途中で数多に別れ敵船に降り注いだ、敵船は激しく爆発し

消えてなくなった、横の方は大鎌から放たれた斬撃が敵船4隻を真っ二つにした

どうやらエースの方も済んだようだ、エースもメリー号に戻り行動を共にする事にした

「『乾杯!!!』」

「エースとシンとタクが仲間になった!!!」

「誰が仲間になるって言った?」

「美味しい飲み物に・・・」

「『乾杯!!!』」

ジョッキを持ち騒ぐウソップ、ルフィ、チョッパー

「気にしないでお兄さん、この人達は乾杯の口実を探してるだけなの」

「やれやれ」

俺もジョッキの中身を飲む

「なあ、お兄さん達よ、さっきやった技は悪魔の実の力なのか?」

サンジが俺と拓人に聞く

「俺はそうだ、俺はコアコアの実を食べた核人間だ」

悪魔の実 能力解説

自然系 ロギア コアコアの実 能力者 コア シン

超人系、動物系、自然、三種の中では最も稀少且つ最強種自然系悪魔の実の一つ

食した者は核人間となる、核、粒子、原子、分子、あらゆる物質を操る事が出来る、それらを使いあらゆる物を創造、構築が可能が、命の核は作り出す事が出来ない

ビームやレーザーを放つ事も出来る、核などを使い体を持ち上げ空を飛ぶ事も可能が高い集中力を要する核などを体の周りに展開すれば短時間であるが、海中でも行動が可能

更に海楼石による能力の無力化を防ぐ事が出来る、その気になれば核爆弾を作り出す事が出来るそして自らの体の構築を変える事が出来変身が可能

あらゆる悪魔の実に対する弱点を突く事が出来る

動物系 ソオン 幻獣種 カミカミの実 モデル 死神 能力者 死神のタク

超人系、動物系、自然系、三種の中で能力者の身体能力が純粹に強化される

唯一の種、動物系に属する

あらゆる鎌を作り出す事が出来る、身体能力を通常の動物系より遙かに引き上げる

敵に圧倒的な威圧感、恐怖感を与え、味方には自分達には死神が付いているつという安心感を与える

相手の死相、寿命を見抜く事が可能、更には魂を抜き取る事が出来、取り込む事が出来、取り込んだ魂の生前の能力を

自分の物にする事が出来る（悪魔の実さえ自分の物にする）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3901z/>

ワンピース 二人の転生者

2011年12月16日01時49分発行